



「見たり、聞いたり、探ったり」No.214

通算 No.366

青 木 行 雄



明けましておめでとうございます  
本年も何卒よろしくお願い致します

平成30年 元旦

青木行雄

## 乾徳山「恵林寺」と「武田信玄公」

甲府に別荘を持つ友人の案内で縁あって塩山の恵林寺を尋ねた。前にも何回か行った事はあるが、歴史に重みのある有名な場所は何回来ても新たな感動が湧いてくる。

ここ「恵林寺」は代々甲斐国主・武田氏の菩提寺である。初めに武田信玄公について記してみたい。

武田信玄は1521年(大永元年)11月3日、甲斐国主・武田信虎の嫡男として甲府・積翠寺の要害城で生まれた。幼名は太郎、長じて元服のとき足利將軍義晴より偏諱をもらい晴信と名乗ったと言う。入道して信玄と称し、また法性院、徳栄軒などとも号したようだ。

1541年(天文10年)6月、父信虎を駿河今川家へ退隠させ、21歳で家督を継ぐ。信濃を攻略し、やがて川中島で越後の上杉謙信と干戈<sup>かんが</sup>を交える。1572年(元龜3年)には3万余の大軍を率いて上洛戦に出るが、三方ヶ原で徳川家康を敗走させたものの、1573年(翌天正元年)4月12日、信州駒場で病没した。時に53歳であった。

武田信玄公の人柄・人間性について、上杉謙信は信玄病死の報せを受けた後の伝えによると、「惜しい武將を失なった」と嘆き、「英雄、人傑とは信玄のような人物をいうものである。関東の弓矢の柱がなくなり残念である」と涙を流したと伝えられている。

信玄は、戦国時代における卓越した軍略家であったと同時に、すぐれた民政家でもあった。信玄による領国支配体制は独得なものであったと評価されているが、ひとつには信玄が他の戦国武將に抜んじた”政治哲学”を体得していたからでもあるようだ。

戦国という厳しい現実から目をそらすこともできず、血なまぐさい戦乱の場に体当たりしながら、しかも生死の境にあって人生の意義と充実に努めざるを得なかった武將たちの真剣な生き方、身の処し方には、生存競争の激しい現代人の心にも共鳴を感じるものがあるのではないか。

信玄は寸暇を惜しんで宗派を問わず、知識・英衲<sup>えいのう</sup>とうたわれる名僧、高僧に私淑し、特に臨濟禪の奥儀を極め、それによって得た心機、修養などを内政面に応用した。

人は城、人は石垣、人は濠  
情は味方、仇は敵なり



※乾徳山恵林寺西側の入口で参門の本道に出る。



※四脚門(国重要文化財)「赤門」。鮮やかな赤色に塗りがえられ目立つ。

信玄作と伝えられる歌にもあるように、家臣団、領民を城や石垣以上に貴い存在として、統治しようとした信玄の心情がよく表現されている。あるいは信玄の「人」を中心とする領国政治に家臣団、領民の日ごろの感謝の念が、後世、信玄に仮託して生まれて歌であったとも考えられる。この信玄精神を範とした徳川家康は、やがて徳川300年の歴史を開いていくのであった。

「甘柿も渋柿もそれぞれに使い道を考えよ」と人材を発掘し適材は適所に用いた信玄の教訓、また「上辺だけで人を判断することは将来に大きな悔いを残す」と自らを戒め、そして目先の利益よりも将来の大きな目標をめざして「後途の勝ちこそ肝要」と教える。更に「団結のもとに、まず日常の人の和である」と、いまでいうチームワークを重んじたのである。

信玄は現実を凝視し、行動は冷静にして慎重であったという。単なる戦国武将ではなく信仰や学問、修養などにも努力した文化人でもあり、政治家でもあったようだ。信玄をして当代一流の武将と賞賛されたのも当然のような気がする。上杉謙信も賞賛し、現在でも通用する人物者であった信玄に今の世の中を見てもらいたい気がすると言う人もいる。

それでは「恵林寺」とはどんな寺なのか。

日本の寺は必ず寺の前に何とか山と山がつく、この恵林寺も「乾徳山・恵林寺」というように山がついている。

乾徳山恵林寺は、代々甲斐国主・武田氏の絶対的な庇護を受け、武田氏が滅亡したあとは徳川氏、徳川幕府の手厚い外護のもとに、戦国時代以後は甲斐国における臨済宗妙心寺派の拠点として法灯を輝かせてきた名刹である。

恵林寺はいまから687年前の1330年(元徳2年)9月、甲斐牧ノ荘の領主であった二階堂出羽守貞藤(号して道蘊)が時の名僧夢窓国師に深く帰依し、自分の邸宅を禅院に改めて国師を招請したのに始まるという。

二階堂氏は鎌倉時代末期、北条高時を執権とする鎌倉幕府の要人で、甲斐牧ノ荘のほか三河の重原荘、相模の懐島などを所領していた。道蘊(二階堂氏)の祖はもともと伊豆の武士で源頼朝に属し、頼朝の武家政権確立にあたっては、甲斐源氏の頭領・武田信義(武田氏の祖)らと共に活躍し、その功績によって政所寄人の要職を務め、また後には執事なども務めている。

以来、子孫が要職を世襲し、道蘊(二階堂氏)の代には執権補佐を務めるようになり、幕府の首脳として



※三門(県文化財)  
2階に閉じ込められて、焼き討ちに合った三門。その後再建の門。



※開山堂、堂内には、夢窓国師、快川和尚、末宗和尚の3像が安置されている。

活躍した。後醍醐天皇の配流や幕府の重要な政治問題には常に参画していたようである。

さて夢窓国師を開山として開創された恵林寺は国師の高徳を慕う求道の徒で寺勢は高まり、特に1332年(元弘2年)には幕府討伐の先鋒となった細川顕氏が恵林寺に参禅し、顕氏の紹介で足利尊氏も恵林寺に国師を訪ねている。

この恵林寺の規模について調べて見ると1868年(慶応4年、明治元年)の寺記によれば、恵林寺境内には15の坊院・庵があり、末寺は59ヶ寺があった。また寺領地は信玄時代の寺領に加えて徳川家康が武田不動尊の灯明料として更に寄進、境内地だけでも実に36,400坪あった。また、山林も一里四方であったと書かれている。

乾徳山の山号は、開山夢窓国師が笛吹川上流・徳和の乾徳山で一夏面壁の修業をした因縁によるものと伝えられ、庭園は夢窓流の庭園としても国指定の名勝となっている。

では開山・夢窓国師とはどんな名僧なのかを調べたくなったので記した。

夢窓国師は鎌倉・室町時代初期を代表する臨済僧で、夢窓、正覚、心宗、普濟など7代の天皇からそれぞれ国師の号を贈られた名僧で、世に七朝帝師と尊称されている。禅の和様化に務め五山派の第一人者となり、また<sup>いしたて</sup>“石立僧”としても著名でその手による名園を今日に多く伝えている。

石立僧としての国師の足跡はこの恵林寺をはじめ美濃の虎溪山永保寺、京都の天竜寺、南禅寺、西芳寺(苔寺)、鎌倉の円覚寺、瑞泉寺などがある。

恵林寺を訪れてまずやはりこの日本の代表的な名園を見なければと思う。

1944年(昭和19)国の名勝史跡に指定され、京都の天竜寺、西芳寺庭園とともに、国師築庭の代表作とされている。

庭園は本堂裏手にあり、借景として乾徳山と笛吹川筋の村落が取り入れられ、規模雄大である。上下2段



※本堂に入り、鶯張りの廊下。静かにあるいても声が聞こえる。歩いて見なければ、説明出来ない。



※明王殿にこの武田不動尊が安置されている。



※見学に入る受け付口。ここから見学コースとなっている。

になっており、上段は枯山水、下段は心字形の池を配す池泉回遊式になっている。西芳寺(苔寺)、天竜寺庭園よりも10年のはやく、国師が56歳時の築庭であるという。

大自然そのままの姿を庭園に再現し、そこに森羅万象の姿を見ようとする禅観一味、すなわち「一色一香、無非中道」「無為自然」という玄旨甚深の禅境の法味を国師は築庭によって表現したといわれる。

境内にある山門の説明をしておきたい。

写真にあるように塗り変えたばかりの「四脚門」が真赤に目立つが、国重要文化財で、黒門を入り参道を上がるとこの四脚門(赤門)が現れる。この赤門は織田信長により全山焼かれた後、徳川家康によって再建された当時のもので、1606年(慶長11)の棟札が掲げられている。なんとも重みのある山門だ。

「三門」(県文化財)

「安禅不必須山水 滅却心头 火自涼」という

快川和尚の遺偈が掛けられている門が、県の文化財に指定される三門である。

武田氏を滅ぼした織田軍は恵林寺に押し寄せ、潜伏保護されていた者達を引き渡すよう快川和尚に命じたが拒否され、怒った信長が三門快川和尚はじめ約100人の僧侶らを封じ込め火を放った。1582年(天正10年)快川和尚、壮絶な火定を遂げた際の一句という。

開山堂

3つの門を潜ると正面に聳える開山堂がある。堂内には、夢窓国師、快川和尚、末宗和尚の3像が安置されている。

末宗和尚は快川国師の弟子で、三門焼き討ちの際、快川和尚の命を奉じて火を逃れた僧で、那須の雲巖寺に潜み、後に徳川家康に命ぜられ恵林寺の再興にあたった僧である。

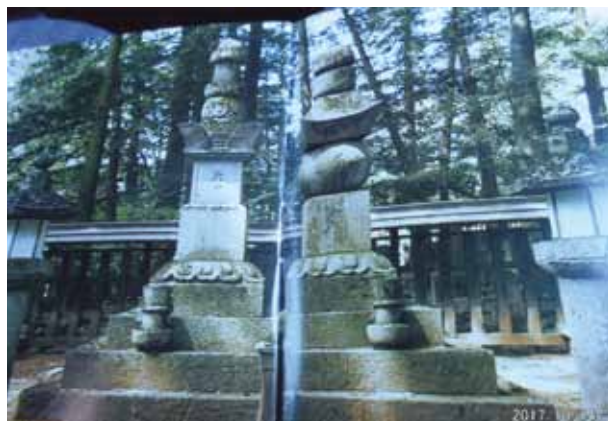
家康再建の後には、5代將軍綱吉の側近となる柳沢吉保が、信玄の法要を行うと共に寺内の修復をはかっている。

武田不動尊

本堂に入り、うぐいす廊下を抜けると、明王殿に武田不動尊が安置されている。比叡山より大僧正の位を受けた際、記念像として京都より仏師の齊藤康清を招き、対面で模刻させたという等身大の不動明王で



※夢窓国師庭園。写真以上にすばらしい庭園であった。  
池泉回遊式庭園



※武田晴信(信玄)公の墓。明王殿の裏に信玄の墓がある。

あるといい、信玄生前の制作であることから、信玄生不動とも呼ばれる。信玄31歳である。

特に境内に昭和天皇御手播の松の木が目立ち、懐かしく写真を撮った。1950年(昭和25)4月4日甲府市で行われて第1回全国植樹祭の折だと言う。

臨済宗妙心寺派 乾徳山恵林寺

〒404 - 0053

山梨県甲州市塩山小屋敷2280

0553 - 33 - 3011



※昭和天皇の手植えの松の木 昭和25年4月4日。

記 平成29年12月3日



武田信玄公

出典：[http://www.takedajinja.or.jp/1\\_jinja.html](http://www.takedajinja.or.jp/1_jinja.html)